

# NTTについての意見

NTTは内外からの回線使用料の引下げ要求をうけてむづかしい問題処理を迫られている。米口は貿易の自由化を唱え下り一方で都合の悪い点については夜ダンピングなどと称して全く反対の主張を貫き通している。

世界の通信市場はグローバルな自由競争の場となっており、口境を越えて企業統合・提携が行われている。政府はこれに市場におけるNTTの独占を阻むために電電法の立り上りを支援し自由競争を促してきた。

お除く電報料金の低下がむしろ北米とは異なっている。しかし自由競争の「い」といって抑え、通話・通話料にのみNTTの過剰利益を共同にすべきである。

これからの政策からすれば国内の独占禁止は目が行くあまり、国内企業同士に競争の抑え合いをさせ、油に火を注ぎ、日本の通信市場を閉ざそうと、外国企業に期待が組みあがりの結果を招き兼ねないことを懸念する。

NTTは世界の市場において戦える数少ない企業の一つである。政府はこれを育成する方向で考えなければならない。そのためには自由競争原理の下、電電法に際しては水が去るべきである。

現在のNTTの持株会社形態では市場の自由化に直接役立ったとは云えない。市場に開き、自由競争の形をとり、NTTは一律に競争力のある企業の下、国内競争力と国際競争力を確保できるように企業内外の努力が求められる。

これら方向としては政府の介入は企業に限り得ない。自衛隊その他の企業と同様、企業の自由競争に委ねるべきである。

業として申し上げたいことは、切り切りを促しているが、競争相手は日本の企業ではなく、日本市場を独占しようとする外国企業、と云うことであり、この発想の源泉であるべきである。

競争の材料は多くを、知識の向上に力を入れ、相対的に云うことが出来た。

〒416-0913 浜北市平垣本所6-4

佐野 隆 彦 775  
〒416-0913